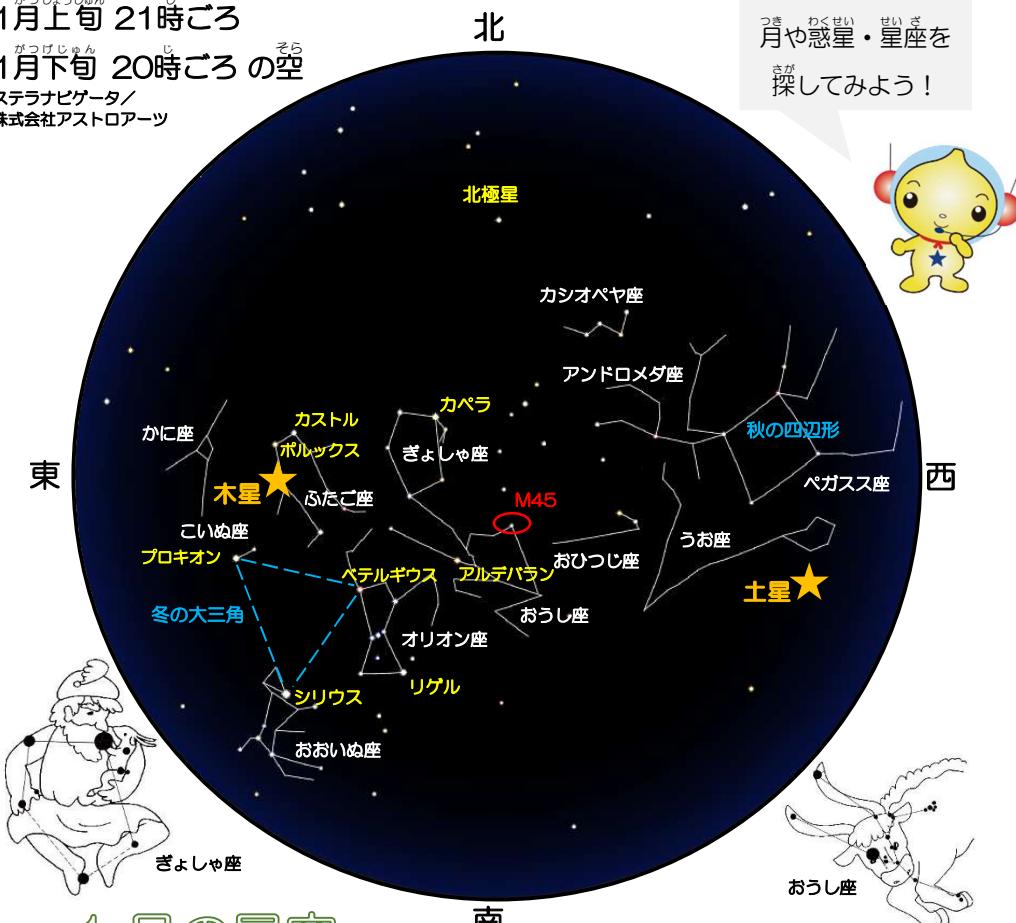


月刊 星空の散歩道 1月号

2026年

1月上旬 21時ごろ
1月下旬 20時ごろ の空
ステラナビゲーター/
株式会社アストロアーツ



1月の星空

☆宵空の主な星座と明るい星☆

西の空に秋の星座が見え、南と東の空に冬の星座が見える。

<西> ペガスス座、アンドロメダ座

<天頂> おうし座(アルデバラン)、ぎょしや座(カペラ)

<南> オリオン座(ベテルギウス、リゲル)、おおいぬ座(シリウス)

<東> ふたご座(カストル、ポルックス)、こいぬ座(ブロキオン)

<北> 北極星、カシオペヤ座

☆天文トピック☆

1月4日 しぶんぎ座流星群

三大流星群のひとつ。ピークは4日6時頃と予想されていますが、ほぼ一晩中、月が見え、条件はよくありません。

1月10日 木星が衝

地球から見て木星がちょうど太陽の反対側にくるので、一晩中、木星が見られます。

1月23日 月と土星が並ぶ

日没後の西の空で、細い月と土星がとても近づいて見えます。

☆月の形の変化☆

1月 3日	満月	
1月 11日	下弦	
1月 19日	新月	
1月 26日	上弦	

★1月の惑星★

土星…日没後、西の空
木星…日没後、東の空

＜天文コラム＞ M45

おうし座にあるM45(プレアデス星団)は星の集まりで、星がよく見えるところでは肉眼で6~7個くらい数えることができます。日本では昔から「すばる」という呼び名で親しまれており、これは「ひとつにまとまっている」という意味の「すまる」が語源になっていると考えられています。双眼鏡でM45を見ると、より多くの星が見られます。このように星が集まっている天体を散開星団と言います。

星は一つずつ生まれてくるのではなく、数十個、数百個の星がまとまって誕生し、時間の経過とともに散り散りになっていきます。M45の星々は、生まれてからまだ数千万年しか経っておらず、太陽は現在約50億歳で、後50億年ほどの寿命があることを考えると、はるかに若いと言えそうです。しかし、M45の星々の多くは高質量で、輝く元となる水素を一気に燃やし尽くし、1億年以内に最期を迎えるという「短命の星々」もあるのです。

機会があれば、双眼鏡で狭い範囲に星々が密集しているM45を探してみてください。



M45(当館職員撮影)

